

牛群検定通信 No49

◇ 暑熱対策とモニタリング ◇

暑熱対策は、次の3つの面からチェックします。

- (1) 牛を暖めない（日射し対策や屋根の加工など）
- (2) 牛を冷やす（送風扇やミスト、毛刈りなど）
- (3) 牛から熱を出さない（良質粗飼料を夜の涼しい時に与える、十分な飲水など）

暑熱対策にもう十分はありません、常にチェックするようにしてください。

そして、何よりも大事なことはこういった暑熱対策が実際に効果があったかどうかを牛群検定成績を利用して検証することです。牛はモノをいいませんので、代わりに牛の声を牛群検定を通じて聞いてあげなければなりません。このことをモニタリングと言います。

今月の検定成績表が到着しましたら、昨年の夏季の検定成績をみて、次にあげる要領で昨年の暑熱対策の課題を洗い出して、今年は何に注意すべきか検討してみてください。

【1】 標準乳量

標準乳量とは、検定日に立会した1頭ごとの乳量を産次や分娩季節、搾乳日数などで補正した乳量なので、異なる条件下にある牛たちを同じ土俵の上で比較することが可能な数値です。標準乳量は暑熱対策のモニタリングとして最もよく用いられるもので、四季それぞれの乳量も同じ土俵で比較することができます。もし、夏季の標準乳量が下がっていれば、暑熱対策に更に工夫が必要だということになります。

【2】 体細胞数

夏季は牛の体力（健康）が低下することで抵抗力が減り、乳房炎を罹患しやすく体細胞数が増加する時期です。また、また、梅雨や秋雨の時期は湿気も高く注意が必要です。湿気が高い時期にミストや散水を多用すると、牛床が乾燥しなかったり、牛体に付着した水滴が乾燥せずに、乳房炎発症の温床となってしまうことがあります。このように、もし夏季に体細胞数が高くなるようでしたら、暑熱対策とともに湿気対策、牛床の管理に課題があると推測できます。

【3】 繁殖

夏季には繁殖性が低下してしまうことはよく知られているところです。暑熱がおよぼす繁殖への影響としては、「良い発情が来ないので授精を見送る」という事例が多いことがあげられます。そこで、授精状況でモニタリングする内容としては、授精頭数の増減が目安となります。もし、夏季の授精頭数が激減していれば、夏バテから良い発情が来ていないことが推測できます。

【お知らせ】

今月から検定成績表に「肢蹄状況スコア」が追加されました。詳しくは配布中の増刊牛群検定通信 6 月号をご覧ください。